袁氏の別業に題す

賀知章

主人相識らず　偶坐するは林泉の為なり
謾に酒を沽ふを怒ふる莫かれ
囊中自ら銭有り

©ritsumeichubun

夜、趙縱を送る　楊炯

趙氏　連城の璧　由来　天下に伝ふ

君が旧府に還るを送れば　明月　前川に満つ

©ritsumeichubun

易水送別

駱賓王

此の地 燕丹に別る 壮士髪 冠を衝く
昔時 人已に没し 今日 水猶ほ寒し

©itsumeichubun

侍御に贈る　陳子昂

漢庭　巧宦を栄えしめ　雲閣　辺功を薄んず
憐れむべし　驃馬の使　白首　誰が為にか雄なる

©ritsumeichubun

子夜春歌

郭震

陌頭 楊柳の枝 己に春風に吹かれたり
妾が心 正に断絶す 君が懐い那ぞ知ることを得ん

©ritsumeichubun

南樓望　盧僕

国を去りて　三巴遠し　楼に登る　萬里の春
心を傷ましむ　江上の客　是れ故郷の人ならず

©ritsumeichubun

汾上にて秋に驚く　蘇頲

北風　白雲を吹き　万里　河汾を渡る
心緒　揺落に逢ふ　秋声　聞くべからず

©ritsumeichubun

蜀道にて期に後る　張説

客心　日月を争ふ　来往　預め程を期す

秋風　相待たず　先ず洛陽城に至る。

©mitsumeichubun

鏡に照らして白髪を見る　張九齢

宿昔 青雲の志 蹉跎す 白髪の年
誰か知らん 明鏡の裏 形影 自ら相憐れまんとは

©ritsumeichubun

洛陽の李小府が「永桑公主の蕃に入るを観る」に同ず　孫逖

辺地鶯花少し　年来れども未だ新なるを覚えず
美人天上より落つ　龍塞始めて応に春なるべし

©ritsumeichubun

静夜思

李白

牀前 月光を看る 疑ふらくは是れ 地上の霜
頭を挙げて 山月を望む 頭を低れて故郷を思ふ

©ritsumeichubun

怨情

李白

美人 珠簾を捲き 深く坐して蛾眉を嚬む
但だ見る 涙痕の湿うを 知らず 心に誰をか恨むる

©ritsumeichubun